

## 【巻頭言】

## 学友会というもの

理事 山村 憲一郎(61 回生)

先日、神澤良明前学友会会長と西谷源展先生(44 回生)よりご推薦いただき、本学学友会理事を拝命しました山村憲一郎です。

私は学友会の支部の一つである大阪支部の支部長を 6 年間務めさせていただきました。それ以前からも学友会には参加していましたが、学友会というのは、先輩方が集まって講演会や懇親会をされているという認識でした。そんな中、学友会の認識を変えるような最も印象に残っていることがあります。それは、2011 年に京都市内で学友会総会が行われたときのこと。その数か月前に関西でもその揺れを感じられた、東北を中心とした東日本大震災が起こりました。総会では被害のあった地方の学友会会員の安否を学友会として確認し、その結果を報告されていました。この時、それまで「ただなんとなく」参加していた学友会の認識が変わったのを感じます。この学友会会員の安否報告から、「おーい、大丈夫か?」「ありがとう、どうにかこうにか、がんばっているぞ」そんな声が聞こえてくるような気がしました。たくさんの技師学校があるなか、卒業生の、それもずいぶん前に卒業された卒業生の安否を、学友会が確認する。報告のなかで、学友会から安否の連絡があると思わなかったとご本人の談も紹介されていました。

学友会は今から 89 年前の 1928 年に「島津レントゲン技術講習所」の卒業生で組織され、現在、全国に 24 の支部があります。つまり、卒業生が日本全国におられるわけです。私の学生だったころも北海道から九州まで、各地から入学された同期の方々がおられました。研究会や学会などに参加すると、さまざまなモダリティーのご講演をされている雲の上の方々がいらっしゃいます。必ずあるのが演者の先生の略歴ご紹介です。〇〇先生は〇〇年に京都医療技術専門学校、現在の京都医療科学大学をご卒業され云々。ご挨拶のついでに、「私も京都なんです」という卒業した学校の話に発展すると、雲の上の方々が一気に自分の目の高さまで降りてきていただけたこともたくさん経験しました。ついさっきまで知らなかった方でも、同じ京都出身と言うだけで打ち解けていただけた方もたくさんいらっしゃいます。

学校の名称は幾度も変更されていますが、必ず最後に学友会と付いています。すなわち、学友会という組織は卒業生で構成される仲間であることは変わりなく、脈々と受け継がれた学友会の歴史の中で、同じ京都出身であるという一体感とその雰囲気を作り出していると思います。今後もたくさんの卒業生が京都医療科学大学から輩出され、同時に学友会の会員になっていきます。「京都」というキーワードで、遠まきにしか見ることしかできなかった大先輩たちと職場を超えた関わり合いの中で、研究のことや仕事のこと、世間話など貴重なアドバイスを頂けるかもしれません。だいたいぶん前、チョット前に卒業された先輩方に、声をかけてみて下さい。

急に話しかけると、何を話していいか困る時がありますから、まずは学友会で……。



以上